平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ７６ ※記入不要	提案機関名	県央地域農業改良普及センター

要望問題　イチゴ品種によるダニの好選択性について

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

イチゴ品種「章姫」よりも「さちのか」の方がハダニがつきやすい等の品種間差が現場で確認されている。ある種の揮発成分、methylsalicylate、hexen-１-ol、terpineol等の濃度差に左右されると言われているのは周知のとおりだが､ダニの好選択性を下げる揮発成分を見つけ、そのイチゴ葉における含有成分率を高めるとともに、育種へ応用し「新農総研○号」を作出してほしい。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所

部　　署：農業環境部

対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

イチゴのハダニの寄生について、当所生物資源部で栽培を行っている品種間にも差は見られます。

イチゴの寄生特性については、揮発成分のみで左右されるわけではなく、植物各部位の形状等の物理的違いによる、寄生後の定着度合いに違いに大きく左右されます。

揮発成分については培養直後の幼苗では調査が難しく、又成苗になった時に同じ物が含まれているとは限りません。

また、イチゴの育種にあたって重点を置いているところは、味、色、形状 など品質面が大きく、病害虫についての耐病性、抵抗性についてはこれらより重要度が低いと思われます。

成分を探索してからの育種は、ご要望の２～３年ではとても無理と思われます。

なお、育種及び栽培している品種の中で、ダニの寄生が少ない品種がありましたら、情報でお伝え致します。

また、最終的な品種選抜を行うときの一つのチェック項目として、ダニの寄生性について考慮していきます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	